

### 326 Tl-201心筋シンチグラフィにおける吸収補正の臨床経験 —SPECT を用いて—

永島淳一、西野英男、山片 敦、丹野宗彦、  
千葉一夫、山田英夫、外山比南子\*

東京都養育院附属病院核医学放射線部  
\*筑波大学 放.

SPECT 像における各種吸収補正法のなかで、Radial post correction (RPC; 田中らの方法) を用いた臨床例を報告する。

Planar像、GE法、RPC 法を用いて、心筋シンチグラムにおける血流欠損所見の臨床的一致、不一致について検討した。対象25例中、三者とも完全一致を示したものは12例であった。二者間においては、Planar像—GE法15例、Planar像—RPC 法16例、GE法—RPC 法14例で所見の一致を認めた。GE法—RPC 法の比較において不一致を示した例では、RPC 法における前壁の所見にGE法と相違を認める傾向にあった。

### 327 <sup>201</sup>Tl心筋 SPECT 像における心筋梗塞患者の安静時 “redistribution” の検討

塚本達夫、後藤弘司、大角幸男、八木安生、  
鷹津久登、荒川迪生、田中 孜、山口正人、  
高屋忠丈、長野俊彦、平川千里 (岐阜大 2内)

心筋 SPECT 像の “redistribution” については、運動負荷後の検討が種々報告されている。今回我々は安静時の像に対するdelayed imageを用いて “redistribution” の有無を検討した。

発症後2週間以上を経過した臨床的に明らかな心筋梗塞症患者25例を対象とし、<sup>201</sup>Tl 4 mCiを用い安静時に静注し、約10分後(第1回)と3時間後(第2回)に心臓前面(RAO 45°よりLPO 45°までの180°)よりのデータを収集しSPECT像を作成した。SPECT像は、横断、前額、矢状面、左室長軸2方向、短軸の計6方向の断層像を作成し、defectおよびlow densityの有無を3人の検者が視覚的に総合的に判定し、第1回目のSPECT像と第2回目の像を比較した。

その結果5例(20%)に “redistribution” を認めた。

さらにSPECT施行前後1週間以内に施行されたcontrast mediumを用いた左室造影像、心エコー (2DE) による壁運動異常部位、ならびに冠動脈造影所見との関係を比較検討した。

### 328 心筋梗塞における心室中隔の SPECT による検討 —特に前下行枝病変を中心に—

三山博司、内海仁司、山口康夫、佐藤裕之、  
中田八洲郎、山口 洋 (順天堂大 循内)  
長瀬勝也 (同 放射線)

今回我々は心筋梗塞、特に前下行枝(LAD)病変を責任冠動脈とした梗塞例を中心にTl-201SPECT法を用い心室中隔の残存心筋の有無につき検討するとともに、心血管造影検査所見との比較検討を試みた。SPECT像における心室中隔の診断は短軸断面像により右心室を描出し右心室が囲む上2/3をLAD領域の心室中隔とした。心血管造影検査所見ではAHA分類にもとずき冠動脈(Seg 1-15)、および左室壁運動(Seg 1-7)の各々につき検討した。今回の検討例では、冠動脈 Seg 6, 7 病変が多く SPECT 上前壁はほとんどが欠損像であったが、心室中隔では正常、欠損像が混在した。Seg. 6 に於いては中隔はほぼ欠損像であったが、側副血行路の発達良好例には正常像が認められた。一方 Seg. 7 に於いては反対に心室中隔はほぼ正常像であったが側副血行路の発達が悪い例では欠損像が多かった。Seg. 6, 7 の病変では心室中隔は側副血行路の有無により大きな差異をもつと考えられた。また少数例であるが心室中隔のTlの取り込みと心血管造影検査の心室中隔壁運動とに一致しない点があった。

### 329 Tl-201 SPECTによる陳旧性心筋梗塞症の梗塞量と運動時血行動態の関連

森 孝夫、大西正孝、加納康至、塩谷英之、大森好晃、  
藤谷和大、福岡 恒 (神戸大学医学部第1内科)  
前田和美 (神戸大学医療技術短期大学部)

本研究の目的は陳旧性心筋梗塞(OMI)における梗塞量の運動負荷時血行動態に及ぼす影響を検討することである。OMI患者35名に安静時Tl-201 SPECTを行ない、梗塞量の大きさを計測した。SPECTの左室短軸の2断面と左室長軸の中央の1断面を評価の対象とし、circumferential profile curveから正常下限(mean-2SD)を下回る欠損の心筋全周に占める割合(%defect)を梗塞量の指標とした。運動負荷Tl-201心筋シンチを行ない、虚血陽性群13名(I群)と陰性群22名(II群)に分類し、安静時およびergometerによる多段階運動負荷時の心係数(C.I.)、一回拍出係数(SVI)、肺動脈楔入圧(PAWP)を測定した。%defectと安静時SVIはI群 $r=0.60$ , II群 $r=-0.55$ の相関を認めたが、安静時C.I., PAWPとは相関はなかった。%defectと負荷時C.I., SVI, PAWPとはI群では相関はなかったが、II群では各々 $r=-0.61$ ,  $r=-0.57$ ,  $r=0.65$ の相関を認め、また $\Delta C.I./\Delta PAWP$ ,  $\Delta SVI/\Delta PAWP$ とは $r=-0.77$ ,  $r=-0.65$ の強い相関を認めた。SPECTは梗塞量の大きさを容易に定量評価でき、その大きさは安静時SVIと関連し、負荷時虚血陰性例では運動時血行動態を規定する大きな要因であると考えられた。